

区分・種別	天然記念物		
名 称	えひめあやめじせいなんげんちたい エヒメアヤメ 自生南限地帯（2 県以上にわたるもの）		
所 在 地	松山市下難波		
所 有 者	松山市ほか	管 理 団 体	松山市
指定年月日	大正14年10月8日		
	中国東北部及び朝鮮半島に産する大陸性植物の一つで小型のアヤメ科植物である。瀬戸内海西部を囲む地域の低山地に自生しているが、愛媛県では^{こしおれやま}腰折山の南側の乾燥した山腹に自生している。日本西南部とアジア大陸の植物分布の関連性を究明する上での好資料である。近年のマツ枯れや植生の変化によって減少し、保護保存に努めているところである。 葉の長さは15～20cm、径1～1.5cmの狭線形で毎年4月10日前後に短い一花茎を出し、柄状の花筒のある紫花を開く。伊予節に「コカキツバタ」の名で歌われたもので、一名を「タレユエソウ」ともいうが、現在は一般に「エヒメアヤメ」の名が通用している。なお、昭和43（1968）年には宮崎県えびの高原霧島盆地の自生が最南限に当たるものとして追加指定された。 「小包にこかきつばたのしほれたる」 子規		

